



9月号

令和4年8月31日

横浜市立東中田小学校

校長 中島 早苗

TEL.802-0500 FAX.801-4089

WEBページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/higashinakada/>

子どもたちに個別最適な学びと協働的な学びを

校長 中島 早苗

長い夏休みを終え、子どもたちが学校に戻ってきました。今年は特に夏休み前半を中心に熱中症が心配される猛暑が続きました。「子どもが学び、遊び、生活してこそその学校」という思いは初任者の頃からもち続けていますが、年々、その思いが強くなります。長期休業明けの初日は、楽しみや喜びとともに、大きな緊張があります。いつものように、校門で登校する子どもたちを迎え、言葉や挨拶を交わし、テレビ放送で子どもたちに語りかけ、その後、教室での朝の様子を廊下から、見守りました。本校の校門は1か所ではないため、半々に立つようにしています。正門から入る子どもたちの表情は大人びた変化を一様に見せながらも、様々でした。

夏季休業中、教職員は多くの研修に真摯に取り組み、夏休み明けの子どもたちを迎える準備を行いました。家庭が中心となる生活から学校の生活が中心となる変化は大変大きいものです。本校では、夏休み明け、さらに丁寧に子どもたちの姿を見取っていくことを研修の中で確認しました。保護者の方も、お子様の様子で気になるところなどありましたら、遠慮なくお知らせください。

私は、本校の研修の他にも、研究会の研修などに、助言者や研修参加者として出席しました。デジタル教科書の便利さも実感しましたし、ある研究会ではタブレットの便利さとともに、生の体験が減ることを懸念して意見が交わされることもありました。この1年で、教職員のICTのスキルは格段に向上しました。校内をまわっていると、子どもたちが当たり前のように使いこなしている姿を多く見かけます。資料を選択して学習を進めたり、友達の意見を大型テレビやタブレット上で共有したり、シンキングツールを使ったりする姿などです。昨年度、一人一台端末の環境が急ピッチで整いました。オンライン会議やオンライン学習の研修が教職員で行われ、その便利さとリスクを防ぐ手立てを知った上で、どの学校でも、思考錯誤の中、「活用」することをねらって、整備を進めてきました。

本校の教職員には、「指導者がまず使ってみて」から、教科の特性や教科のつながりを意識して、効果的に「活用する」ように伝えています。文房具の一つとして、子どもたちが当たり前のように使い、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現をねらっていきます。「個別最適な学び」は孤立した学びでは決してありません。

ICT活用能力は、未来をつくる子どもたちには、必要な能力です。しかし、タブレットを使うことだけを目的にした学びは違います。子どもが学びを自分事としてとらえ、指導者が教科の指導事項を押さえた上での問題解決学習の実現が根底にあることは変わりません。今後も授業改善に努めていきます。保護者の皆様、地域の皆様のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

東中田小学校 学校教育目標

自ら かがやく、ともに かがやく